

展示資料館前花壇の植栽について

中原祥之

はじめに

展示資料館前の花壇は、展示資料館の西側に沿うように南北に細長く存在し、展示室側に約20㎡、管理課側に約14㎡の面積を持つ。企画広報係が管理を行っており、来園者サービスを主目的とし、過去にはノアサガオの巨大な「緑のカーテン」も設置している。また、去年はコキアを植栽し、刈り取り後はクリスマスを飾るフラワー展のオーナメントとして利用するなど、観賞のみならず、イベントの引き立て役としての役割も担った。以下、今年度の通年の管理とその利用について記載する。

植栽に使った主要な植物については表に記した。

表 令和5年度 展示資料館前花壇の使用植物

	春季	夏季	秋季	冬季
展示室側	クリサンセム ム・パルドサム スノーランド オルラヤ デージー マーガレット	キャットミント ジニア ケイトウ	ジニア センニチコウ コスモス キャットミント	パンジー ネメシア
管理課側	チドリソウ アグロステン マ ラムズイヤー	三尺バーベナ ジニア メランポジウム	センニチコウ コスモス ミューレンベル ギア カピラリス	パンジー

春の管理

展示室側はスノーランド、オルラヤ、キャットミント、デージーを植栽しており、スノーランドが大きくなりキャットミントが徒長してしまった。もう少し早い段階での剪定か、株間を開けて余裕のある植え付けが必要だった。令和5年5月15日の職場体験学習中の広島市立城山中学校の生徒と花期の過ぎたスノーランドを抜き（写真1）、キャットミントの切り戻しを行った。



写真1 職場体験学習での作業

また、秋季の花と緑の広島づくりコーディネーター養成講座に向けて、ジニア、センニチコウ等を含むたねダンゴを試作し、植え付けた。

夏の管理

展示室側はキャットミントを残し、隙間にジニアを植栽した。たねダンゴは発芽し生育したが、すべての花は咲かず、その中で生育の良い種類が残って咲いた。たねダンゴは作成時に元肥が入っているので施肥は不要と考えていたが、生育中に肥料切れの兆候が見られたので、ある程度生育が進んだ後は通常の管理に戻す必要がある。管理課側花壇では、クローバーの蒸れからコナカイガラムシが繁殖し、ゼラニウム、ラムズイヤー、三尺バーベナにまで被害が及んだ。カイガラムシエアゾールを試したが、効果が出なかったので、成虫や卵塊の捕殺などの物理的防除を行った。しかし、ラムズイヤーが密生しているところでは、蒸れとカイガラムシの被害が強く、強剪定で再生を図ったが、時期が遅かったために枯死させてしまった。他の対策として植え付け時にオルトランDXなどを混ぜ込むなどして管理を始めたが、早期に発見し捕殺することが一番効果的であった。

秋の管理

展示室側のキャットミントを剪定し、たねダンゴの跡地にポットで苗を作っていたコスモスを植栽した。アブラムシとうどん粉病の被害が出たが、ベニカXファインスプレーで防除した。今年度は趣味のボタニカルアート展の開催が秋となり、関連イベントであるボタニカルアート色付け体験の画材がコスモスとなっていたが、開催日時がコスモスの摘み取り後になっていたため、展示資料館前のコスモスが役に立った（写真2）。また、花と緑の広島づくりコーディネーター



写真2 花壇のコスモスを利用したボタニカルアート色付け体験

ター養成講座でリナリア、セントーレア、カスミソウ等を含むたねダンゴを植え付けた。

冬の管理の予定

ジニアの跡地にはスイセンの球根やパンジーを植え付け、オルラヤを直播きする。また、少し時期が遅れたが、ワスレナグサを育苗して春に向けての準備を進める。また、たねダンゴについても、適宜追肥を施す。

来年に向けて

宿根草は開花期が決まっているので、宿根草と一年草を半数の割合で配置するほうが、花壇の見栄えが良いのではないかと考える。夏場の西日に耐えることができる宿根サルビアやエキナセア、ミューレンベルギア、キャットミント等の宿根草は積極的に採用していきたい。今年度は展示室側でキク科の植物を多用したことから、次は連作障害を防ぐためにペチュニア（ナス科）やニチニチソウ（キョウチクトウ科）、来年度の特別企画展に関係する植物（エゴマやダイズ等の搾油して使われる植物）を植栽したいと考えている。また、今年度は防除が後手に回ることが多かったため、来年度は早期発見と早期防除に努めたい。